対象：とんとんとん食堂
取材日：2023 年 3 月 5 日 10:00～14:00
会場：大分県佐伯市内町
文責：大分大学福祉健康科学部　3 年生 森田帆南、矢野彩菜、松山孝太郎

■取材の様子を放映 3/15（水）OAB 大分ニュース「笑顔のおむすび　取材を通じて福祉を学ぶ」を、YouTube 公開中。	

■人を知り、力を引き出す

とんとんとん食堂は、佐伯市のなかまち商店街にある、ごちゃまぜの居場所です。一般社団法人共生社会実現サポートとんとんとんの事業の一つで、「オレンジカフェさいき」に合わせて、毎月 2 回程度、開催しています。今回お話を伺った代表の山内勇人さんは、在宅支援クリニックえがおの代表で医師（内科医、精神科医）をされています。

山内先生は、障害があるないに関わらず、その人の得意・不得意を配慮し、それぞれの人の思いを大切にされています。また、「人を知る」ことで、それぞれの個々人がもつ性格や特性は異なる中、一緒に時間を共にし、関係性の中で分ってくるものです。先生はこの考え方を、活動を行う中で周りの人から気づかされる、教えて貰うと仰っていました。このような「合理的配慮」について、実際に取材に行き、現場を見て、先生を含めたスタッフが同じマインド、志で、人の多様性を認め合い、障害のある方、高齢の方、認知症の方などそれぞれの人の力を信じ、尊重できているからこそ、そのような考えを大切にできているのではないかと感じました。

■個人の課題を地域の課題として捉える

山内先生は、とんとんとん食堂に来る方々が、悩んでいる・困っている状況を打破できるように、ここでの活動を楽しいものにして、みんなの居場所になるように運営に携わっています。一人一人が持つ常識を理解しようとする姿勢で、だれもが活躍できる居場所をつくり、支援される側の人が支援する側にまわる機会を作り、スタッフと利用者の境界線をあいまいにしているところが魅力的だと感じました。

本日のスタッフは、高齢者、障がいや認知症のある方、専門職、将来子ども食堂を始めたい方など様々で、それぞれができることに取り組んでいました。利用者は、子ども連れの子育て世代など地域の方で、初めて来た方は「入りやすい雰囲気」と言い、私たちも「居心地が良い」と感じました。このような雰囲気づくりの結果、段階的な参加支援の場、制度的に相談することが難しい方や、フォーマルな場での相談が苦手といった方に対する相談支援の場にもなっています。

■温かい想いが集まるみんなの居場所

居場所の運営には、場所・食材・人材・運営費が必要です。山内先生が「地域の方々の悩みを解決する居場所を作りたい」という純粋な想いで始めた活動は、食堂に集まる地域の方々の温かい想いに支えられていました。

とんとんとん食堂は、地域の方が気軽に通える商店街の中にあり、より利用者の参加のハードルを低くしています。活動の拠点は隣り合う二つの建物で、活動を後押ししたいという大家さんが割安な家賃で貸してくれたり、「利益目的でこの建物を購入したがる人ではない人に売りたい」と安く譲ってくだ

さいました。食堂の入り口は２種類あり、一つはユニバーサルデザインで、どんな方でも差別なく部屋に入ることを意図しています。また、車いすの方でも入りやすいスロープ、エレベーター、だれでもトイレがあり、授乳室や子どもが遊べるスペースなど、「ごちゃまぜ」を実現する様々な工夫がなされていました。このような環境作りからも、多様性が尊重されており、１人１人を想う温かい先生の考え方が表れていると感じました。また、運営費は、地域の方々からの寄付金、一食 100 円の会費、使用範囲に制限のある公的な給付金も使っています。食堂のメニューはいつもキーマカレーで、食料も寄付があり、食材購入の際は、お肉屋さんからお肉を安く仕入れさせてもらっているそうです。

■支え合う仲間同士

とんとんとん食堂は、誰が認知症の方や障害のある方なのか分らないくらいたくさんの人で賑わっており、それぞれが調理・配膳等の役割もって活躍されていました。それぞれがもっている力を引き出す先生の力、それを理解しより良い場所を作ろうとしているスタッフの方がいて、活動、活躍する場があることで、地域住民が主体的に行きたいと思える居場所になっていました。

また、家から出て、参加することが難しい人に対しては、きっかけを作って段階を踏みながら、その人の能力を発揮できるようにサポートしていくことを大切にしています。例えば、引きこもり状態の方がとんとんとんに通うことができる段階になったら、お弁当を地域内で販売して回る有償の「お出かけボランティア」に参加することを提案しています。人前に出ることや仕事をすることに慣れてきたら、パートとして働きます。このように食堂やカフェの利用者だった方が、段階を踏んで運営スタッフに回り、とんとんとんを共に支える仲間になっていくのが素晴らしいと思いました。

とんとんとんでは、そして、先生のお話の中に出てきた「来たいと思えるひっかけをつくる」という言葉、地域の中にいる「引きこもり状態にある人」、「悩みがあるが解決のために一歩踏み出すことができないでいる人」の心にひっかかるような活動を心掛けていること、「利用者とスタッフは支援する・されるという関係ではなく、支え合う仲間同士である」という考えが体現されていると感じました。

■地域の人々と専門職の相互作用が居場所をつくる

山内先生は自分も含め、「専門職が地域に出てくることが大切だ」と考えています。専門職の人が地域の活動に参加することで、自分の当たり前の専門性は当たり前ではないことに気づくことができ、自分の専門性を必要とする人を直に感じることができます。たくさんの人と関わる中で、自分のスキルアップにもつながる等メリットがあります。実際にとんとんとんに携わっている専門職は、医師、看護師、薬剤師、歯科医、保健師、理学療法士、ケアマネ、学校教諭で、実際に地域で活躍しており、地域住民から必要とされています。「専門職」と聞くと、何か相談する際のハードルが高いように感じますが、地域に出てくることで、もっと気軽に相談しやすい雰囲気にもなるのではないかと思いました。専門職が地域に出て必要とされることで、地域の住民の専門職への見方や、専門職の自身のスキルアップにもつながり、また仕事の魅力に気がつくことができるという相互作用があると思いました。福祉を学ぶ学生として実際に参加してみて、人との関係性の中で、その人の強みや魅力に気づき、その人が自らの力を自覚して行動できるようにサポートしている先生の姿から、ソーシャルワーカーの大切なスキルの一つ「エンパワメント」を学びました。

■とんとんとんのこれから

とんとんとんではすでに育児・子育て支援を行っていますが、今後はその支援により力を入れたいと考えているそうです。現状、とんとんとんに親子で訪れることはあっても子どもだけで遊びに来ることはあまりないため、子どもたちだけで気軽に遊びに来ることができるような場にしたいとおっしゃっていました。

とんとんとんの活動拠点は、三階建てです。今のところ一階部分しか活動に活用していませんが、二階部分は改築済み（現在は休憩スペース）で三階部分は未改築です。現在は、三階部分の空きスペースをどのように活用するか検討しているそうです。私も「人の出入りが一階に比べて少ないから、落ち着いた空間にできる、勉強会や簡易塾、静かな居場所などはどうか」と意見を述べました。先生に「いいね」と言って頂き、私は笑顔になっていました。「こうやって、みなさんがどうしたいか意見を出しあって決めていく、それが正解だと思う」という言葉にとても納得しました。

とんとんとん全体としては、スペースを貸し出しして居場所があることを知ってもらい、様々なニーズを持った方々を呼び込みたいと考えているそうです。

■まとめ

今回、とんとんとん食堂の取材を通して、大学で学ぶ「合理的配慮」や「ごちゃまぜ」などを実践の場で実際に見て感じることができ、良い学びとなりました。人との出会いはもちろん、人の多様性を感じる場、学びの場、また家庭以外の自分の居場所として主体的に訪れたいと思える場所があることは、地域にとって、住民にとっても良いことです。

このような場を実現するためには、地域を良くしたいという純粋な想いと、たくさんの人の支援が必要ですが、それ以外にも参加する個々人の良さに気づいたり、力を引き出したりする人、認めてくれる存在が必要です。そのような人と出会うには、人と人をつなぐ、人と場所をつなぐ、そこから新たな出会いと新たな自分を見つける機会にして頂く、これは地域づくりを行うための一つのソーシャルワーカーの役割だと思います。将来、ソーシャルワーカーになった時に、地域を支える専門職になりたいと感じました。

とんとんとん食堂の１日

8 時 30 分～スタッフ集合、カレーの準備

10:00～　　カレーの完成　机等の準備など

　　別室で「認知症のいろいろが分るお店」（山内先生が認知症についてお話）

11:00～　　カレーの配膳

13:00～　　片付け（売り切れ次第で終了）

とんとんとんの前で山内先生とスタッフの方と撮影。当日の様子は YouTube をご覧下さい。